



隙間時間やレディネスにドリル活用 ～個別最適化された学びの実現に向けて～

朝霞第六小学校では、『自律と探究』を掲げ、主体的に学び、自ら学びを深めることができる児童の育成を目指しています。今回は、隙間時間とレディネスでeライブラリを活用している実践をご紹介します。

学習進度の差による隙間時間にドリルで復習 4年2組 五味 玲奈 先生



▲ 課題が終わった児童は、ドリルで学習する

算数 4年：分数

この日の五味先生の授業は、分数の習熟を目指し、プレテストと教科書の演習問題から始まります。児童によって学習進度はさまざまです。本時の課題が終わった児童から、eライブラリのドリルで復習します。この学習進度の差から生まれる隙間時間を有効活用することで、集中力も継続し、授業が終わるまで全員が真剣に取り組んでいました。

教科書のページ数に沿って復習する



▲ 教科書のページ数を入力して検索する



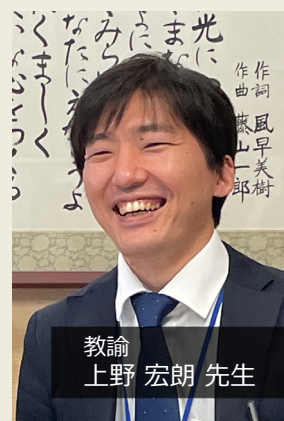
隙間時間は、各自が学習の仕方を考え、工夫しながら取り組んでいます。教科書のページ数から学習教材を検索する「教科書ページ検索」は、本時の内容に絞って効率よく学習できます。児童は、該当単元のドリルを学習要素ごとに取り組んだり、フラッシュカード教材の「いろいろカード帳」で反復学習をしたり、自分に合った方法で復習していました。

インタビュー 学力向上の視点から見た、eライブラリ

eライブラリのドリルは、学力向上の視点で見ると、児童の習熟度から実態を把握できるため、指導の個別化のツールとして活用しています。また、児童がeライブラリを通じて自分の学びを分析し、自身に必要な学びを自己決定する力を培い「自律した学び」を育成することもねらいです。

今では、**多くのクラスで授業や隙間時間に活用しており、各教員が取組や理解の状況を確認し、個別指導に役立てています。また、レディネスとして取り寄せた結果をデータ化することで、授業計画の立案にも活用**でき、とても重宝しています。

学習活動では、考えたことを整理して「書く」活動も大切です。今後は、eライブラリで基盤となる基礎的な知識を習得させ、「自律した学び」と「書いて思考を整理する活動」を両立させたいと考えています。



教諭
上野 宏朗 先生



▲ 先生から出題された関連単元の課題に取り組む

算数 5年：面積の求め方を考えよう

ドリル 4年：面積のはかり方と表し方

赤尾先生の授業では、導入で本時の内容に関連している4年の範囲のドリルを出題します。児童からは「長方形と正方形を使った面積の求め方を思い出すことができた」「復習してみて、間違えて覚えているところがわかった」という声が挙がります。前学年の関連単元を復習することで、本時の学習に進むための準備が整っているようでした。

理解状況を確認、本時の授業に生かす ～レディネスでの活用～



▲ 学習進度や理解状況をモニタリングして確かめる

赤尾先生は、児童がドリルに取り組んでいる様子を「学習指示」の画面からモニタリングしています。全体に「みんな理解できているね。あと少し頑張ろう！」と励ましの声をかけながら、一人ひとりの学習進度や理解状況から、本時の内容へ入る前に補うべきポイントを確認しています。

本時の冒頭、ドリルで復習することで、先生は児童の理解状況を把握して、授業を進めることができ、児童もさまざまな考え方を発表することができました。

授業の流れ



前学年の関連単元をeライブラリで復習する。



本時の課題を確認、個人で考える。



個人の考えを全体へ共有する。



教科書の演習問題で本時の学習内容を定着する。

インタビュー

『自律と探究』で自らの学びを深めるために



校長 田邊 雅也 先生

本校では、「心豊かに自ら学ぶ たくましい人間の育成」を学校教育目標に、『自律と探究』を基盤とし、自らの学びを深められることを目指しています。そのために、全職員が教育振興基本計画や新学習指導要領を基にGIGAスクール構想で整備されたタブレットや学習システムを利用し、より良い授業・働き方改革が実現できるよう日々切磋琢磨しています。

eライブラリは基礎学力の定着と位置づけて利用しています。基礎的な知識を得ることで、教員が考え方のきっかけを与えると、児童の思考が深まったり、気づきにつながったりするようになりました。特別支援学級の児童も、eライブラリに取り組むと集中力が高まり、意欲的に学習に励む姿も見られるようになりました。

個別最適な学びを実現するために、今後もeライブラリをはじめ、ICTを適切なタイミングで活用できるように研究・実践を重ねていきたいと考えています。